

池田 良穂

(大阪府立大学
名誉教授・客員教授)新
クルーズ
学

▶ 66 ◀

本州と北海道の間の津軽海峡を渡って北海道にして切磋琢磨して、海峡渡るには、列車で海底トンネルを通じて行く方法もあります。この航路を唄う「津軽海峡冬景色」を口で渡すこともでき、青森と函館を結ぶことから青函航路と呼ばれていいます。

かつてはJRの鉄道運送船が運航されていましたが、海底トンネルの開通に伴って姿を消し、現在は旅客と車を輸送するカーフェリーがたくさん運航されています。青森と函館の間の航海時間は4時間弱。運航するのは津軽海峡フェリーと青函フェリーの2社で、それ

ぞれ3〜4隻の船を投入して切磋琢磨して、海峡横断サービスを行っています。この航路を唄う

「津軽海峡冬景色」を口で渡すこともでき、青森と函館を結ぶことから青函航路と呼ばれてい

津軽海峡クルーズ

ひ青函航路の船で津軽海峡を渡ってみてください。

さて昨年10月から津軽海峡を渡る航路に、津軽海峡フェリーが青森・室蘭航路を新設しました。

青函航路と呼ばれ、かつて航路があったのですが、廃止されてから随分なりますので、久々の再開です。同社が青函航路



室蘭港に停泊する「ブルーマーメイド」

に使っていた4隻のフェリーの1隻をこの航路にシフトさせました。青函

航路の航海時間が約4時間なのに対して、片道7時間余りかかりますので、1日1往復で、上りは夜行便、下りは昼便です。船旅を楽しむ人にお勧めしたのは、もちろん昼便です。

この昼便は、毎日9時左のほるか遠くに竜飛岬が見え、右に下北半島の

名勝地仏ヶ浦の絶壁が見えた。恵山岬をかわすと北に針路を変えて噴火湾に入りました。左に駒ヶ

11時40分、まぐろで有名な大間町の沖を通過。港内には函館との間を結ぶフェリー「大函丸」の姿が遠望できました。このうした移り行く景色に関する案内表示が船内になることのできる唯一のフェリー航路が、この津軽海峡フェリーの青函航路なのです。また湾の中で

大間を過ぎると、船はいよいよ津軽海峡に乗り出します。東は太平洋

で、西は日本海です。この海峡は国際海峡となっており、北米と東アジアの国々を結ぶ各国の船舶がたくさん通過します。その船の合間を縫って「ブルーマーメイド」は航路を横切り、北海道へと接近しました。ここでは海面が波立ち、船は大きく揺れました。まさに大洋に乗り出した感じがありました。

左手には函館山と函館市街地が見え、恵山町の